別紙様式1

# 令和8年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名：　北海道
農業委員会名：　三笠市

## Ⅰ　農業委員会の状況（R8年4月1日現在）

### 1　農業委員会の現在の体制

| 任命・委嘱年月日 | R5　年　7　月 20　日 |
|---|---|

| 任期満了年月日 | R8　年　7　月 19　日 |
|---|---|

| | 農業委員 | |
|---|---|---|
| | 定数 | 実数 |
| 農業委員数 | 10 | 10 |
| 認定農業者 | － | 8 |
| 認定農業者に準ずる者 | － | － |
| 女性 | － | － |
| 40代以下 | － | 3 |
| 中立委員 | － | 1 |

| | 定数 | 実数 | 担当区域数 |
|---|---|---|---|
| 農地利用最適化推進委員 | － | － | － |

### 2　農家・農地等の概要

| | 経営体数 |
|---|---|
| 総農家数 | 69 |
| 農業経営体数 | 67 |

※　直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

| | 農業者数(人) |
|---|---|
| 基幹的農業従事者数 | － |
| 女性 | － |
| 40代以下 | － |

※　直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

| | 経営体数(経営体) |
|---|---|
| 認定農業者 | 40 |
| 基本構想水準到達者 | － |
| 認定新規就農者 | 2 |
| 農業参入法人 | － |
| 集落営農経営 | － |
| 特定農業団体 | － |
| 集落営農組織 | － |

※農業委員会調べ

単位:ha

| | 田 | 畑 | | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 普通畑 | 樹園地 | 牧草畑 | |
| 耕地面積 | 542 | 801 | － | － | － | 1,340 |

※　直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

# Ⅱ　最適化活動の目標

## 1　最適化活動の成果目標

### （1）農地の集積

①現状及び課題

| | | | |
|---|---|---|---|
| 現状 | 管内の農地面積(A) | これまでの集積面積(B) | 集積率(B)／(A) |
| | 1,340 ha | 1,100 ha | 82.09% % |
| 課題 | 農業従事者の高齢化に伴う離農者の増加が、農地の確保・有効利用を図る上での課題となっており、早急に担い手確保の対策を講じ利用集積を進める必要がある。 | | |

※1　農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2　「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3　「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう（以下同じ。）

②目標

| | | | |
|---|---|---|---|
| 農地の集積の目標年度 | 令和 14 年度 | 集積率 | 87.3 % |
| 今年度の新規集積面積 | 10 ha | 農地面積(C) | 1,340 ha |
| 今年度末の集積面積（累計）(D) | 1,110 ha | （目標）今年度末の集積率 (E)=(D)／(C) | 82.8% % |

※　農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

### （2）遊休農地の解消

①現状及び課題

| | | | |
|---|---|---|---|
| 現状 | 直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況 | | |
| | 1号遊休農地面積 | うち緑区分の遊休農地面積 | うち黄区分の遊休農地面積 |
| | 0 ha | 0 ha | 0 ha |
| 課題 | 高齢化の進行により、遊休農地予備軍が多く存在していることから、遊休農地が発生しないよう、各地域で対応しなければならない。 | | |

②目標

ア　既存遊休農地の解消

a　緑区分の遊休農地の解消

| | |
|---|---|
| 令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積 | 0.9 ha |
| 緑区分の遊休農地の解消目標面積 | ― ha |

※　緑区分の遊休農地の解消目標は、令和4年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

※　緑区分の遊休農地は、令和6年度に解消済み

b　黄区分の遊休農地の解消

| | |
|---|---|
| 令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地 | ― ha |
| 黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針 | 黄区分の遊休農地はないが、黄区分の遊休農地が発生しないよう各地域で対応する。 |

イ　新規発生遊休農地の解消

| | |
|---|---|
| 前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積 | ― ha |

### (3)新規参入の促進

①現状及び課題

| | | | |
|---|---|---|---|
| 現状 | 令和4年度新規参入者 | 令和5年度新規参入者 | 令和6年度新規参入者 |
| | 1 経営体 | － 経営体 | － 経営体 |
| | 2.5 ha | － ha | － ha |
| 課題 | 今後、農業従事者の高齢化に伴い離農がさらに増えることが予想されるため、その際の受け皿となるべく、受入体制を整備する必要がある。 | | |

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

| 権利移動面積 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 平均 |
|---|---|---|---|---|
| | 93 ha | 39 ha | 31 ha | 54 ha |

| | |
|---|---|
| 新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積 | 5.4 ha |

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

## 2 最適化活動の活動目標

### (1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1人当たりの活動日数 | 2 日／月 | 最適化活動を行う農業委員の人数 | 9 人 |
| | | 農地利用最適化推進委員の人数 | ― 人 |

### (2)活動強化月間の設定目標

| | |
|---|---|
| 活動強化月間の設定回数 | 3 回 |

| 取組時期 | 取組項目 | 強化月間の内容 |
|---|---|---|
| 10月 | 遊休農地の解消 | 班体制により全地区の巡回調査を実施する。 |
| 11月 | 農地の集積<br>新規参入の促進 | 担い手への農地集積活動を行うほか、各農事組合懇談会において、農地の利用や新規就農者対策等について話し合いを行う。 |
| 3月 | 新規参入の促進 | 行政と連携し、誘致活動を行う。 |
| | | |
| | | |

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずかを記入
※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

### (3)新規参入相談会への参加目標

| | |
|---|---|
| 新規参入相談会への参加回数 | 3 回 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 開催時期 | 11月 | 相談会名 | 農事組合懇談会 |
| 参加者数 | 10 | 開催場所 | 市内 |
| 相談会の内容 | 各地域での農事組合懇談会において、後継者対策等についての相談業務を行う。 | | |
| 開催時期 | 3月 | 相談会名 | 北海道新規就農フェア |
| 参加者数 | 3 | 開催場所 | 札幌市 |
| 相談会の内容 | 札幌市で開催される新規就農フェアに参加し、相談者の対応を行う。 | | |

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)